〈隷書〉



吉田成美先生書

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉



山本飛雲先生書

□白首松雲に臥す（唐・李白）

次号予告「深緑漸歸高柳葉　淺紅初上小梅梢」

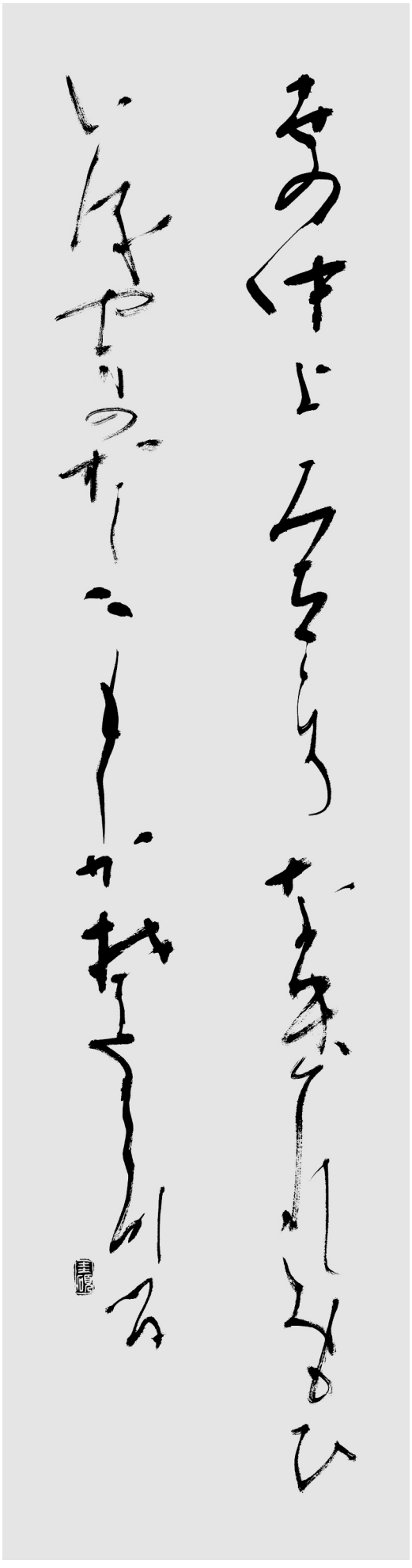
〈行　書〉



井之上　南岳先生書

▽白髪頭になるまで、松に懸かる白雲の中で暮らしている。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



舟尾圭碩先生書

□世の中よ　みちこそな遣(け)れ　おもひい流(る)や万(ま)のおく二(に)も　しか楚(そ)なく那(な)る

世の中よ　道こそなけれ　思ひ入る　山の奥にも　鹿そ鳴くなる

〈百人一首　八十三〉

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

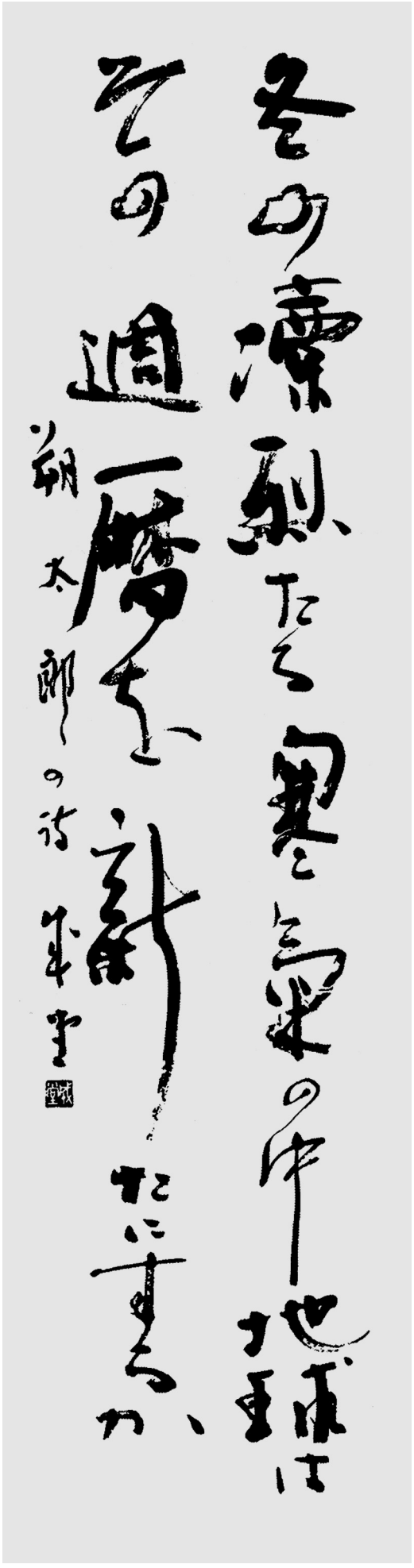


潜寒暑以化物是以窺天鑒地庸愚皆識其端

清原大龍先生臨

▽雁塔聖教序

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



吉田成堂先生書

□新年　萩原朔太郎の詩　冬の凛烈たる寒気の中　地球はその週暦を新たにするか

《手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ）　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□日野草城の句　初空や　一片の雲　耀（かがや）きて

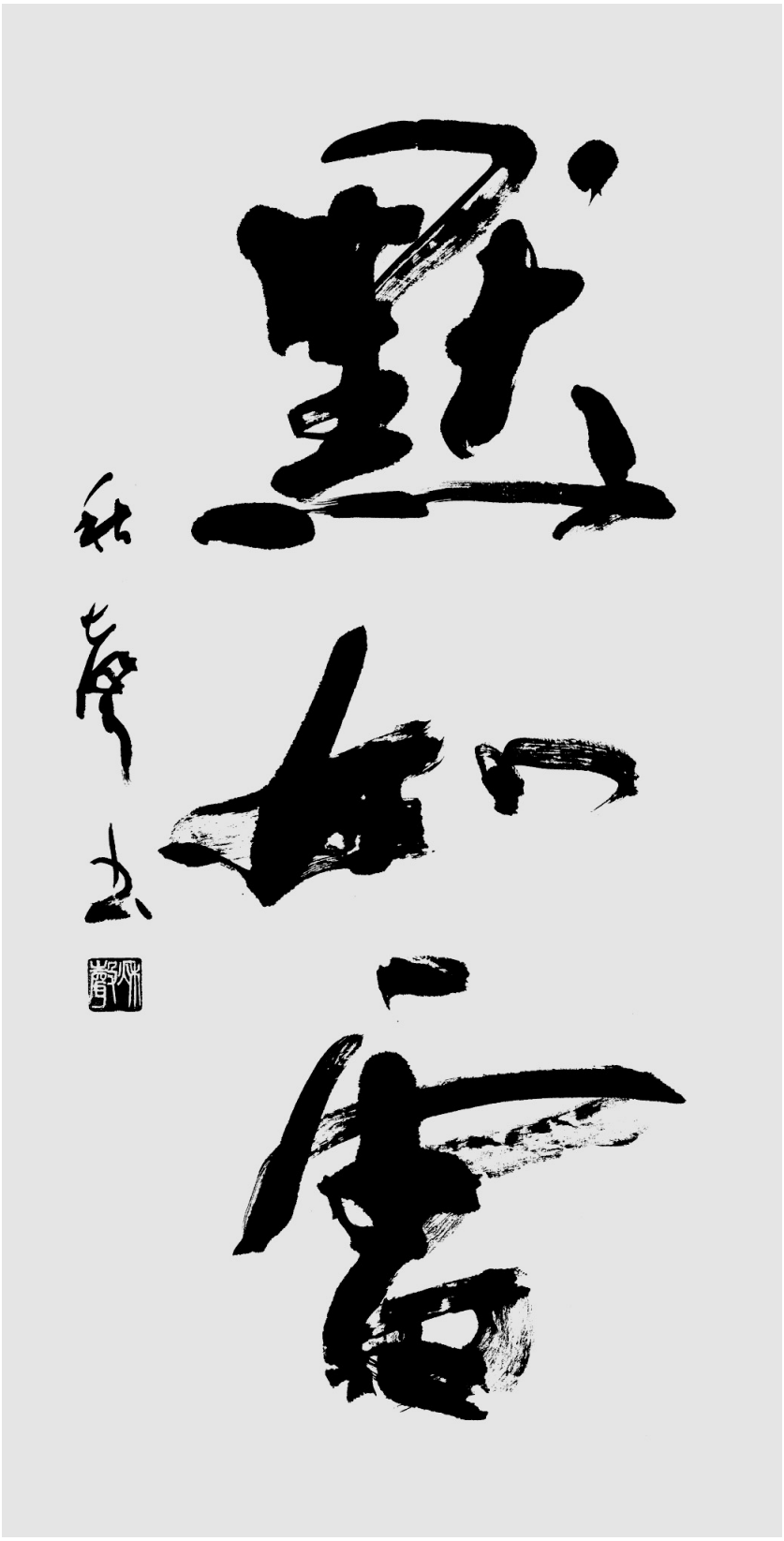
新年を迎えた時の〝初空〟をイメージして書いてみました。みなさんも様々な表現にチャレンジしてみてください。



坂　元　紫　香　先　生　書

条幅随意参考手本（半折½縦のみ）　―１月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□黙如雷（黙して雷の如し）　（黙っていても、その心底に雷のような力がある。）

「如」を扁平にすると無理なく構成出来ると思います。しっかりと墨量を入れて楽に書いてみてください。

小　畠　秋　聲　先　生　書

半紙規定参考手本　　―1月末日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□条有(すじぁ)りて紊(みだ)れず（「書経」盤庚上）
条理があって乱れない。君臣が互いに協力し乱れないこと。

吉　田　成　美　先　生　書

次号予告「野渡花爭發」

半紙規定参考手本　　―1月末日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□条有(すじぁ)りて紊(みだ)れず（「書経」盤庚上）
条理があって乱れない。君臣が互いに協力し乱れないこと。

次号予告「野渡花爭發」

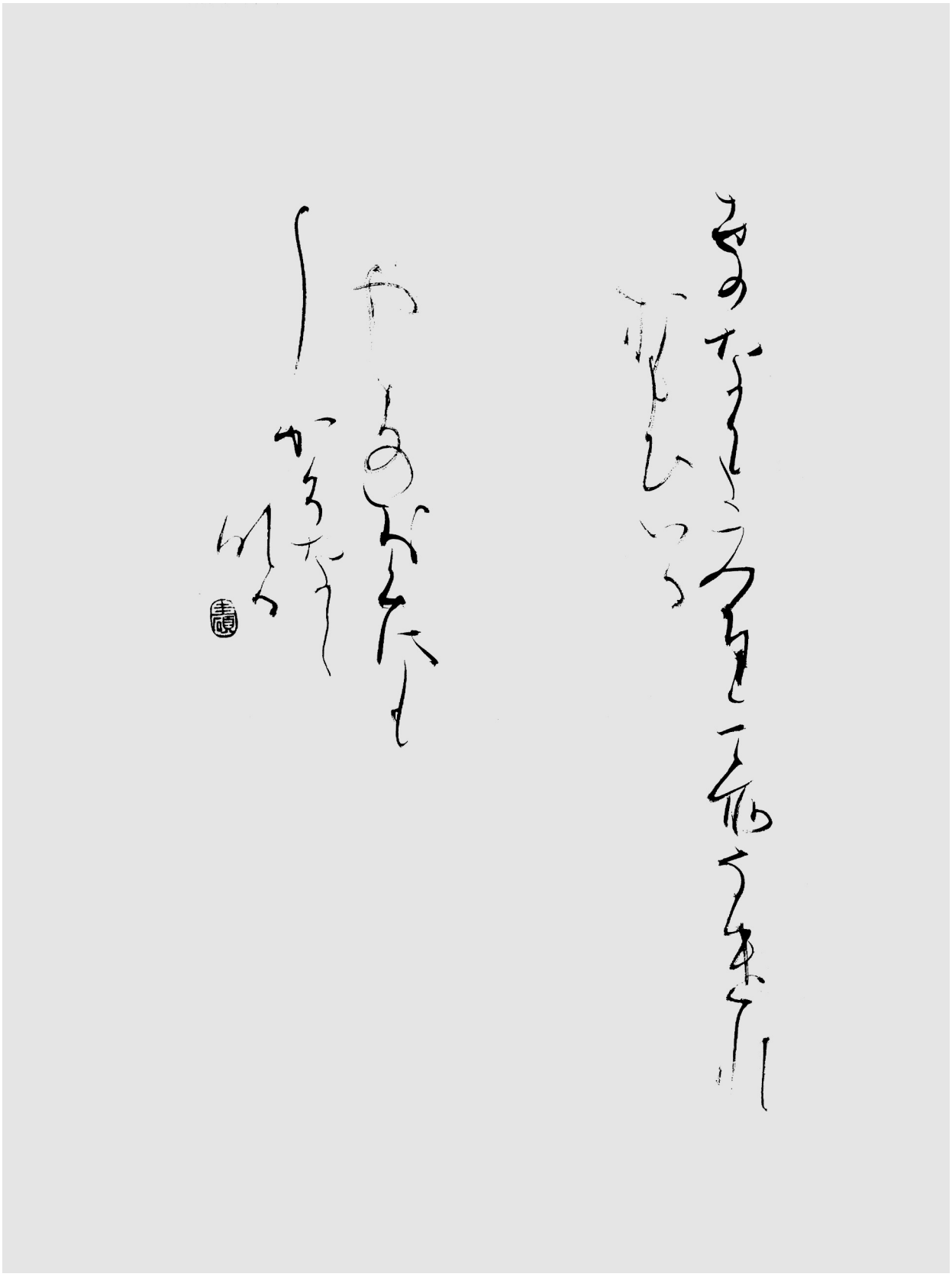
吉　田　成　美　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈仮　名〉

世のな可(か)よ　み遅(ち)こ所(そ)な遣(け)れ　おもひいる　やまのおくにも　しかそなく那(な)る



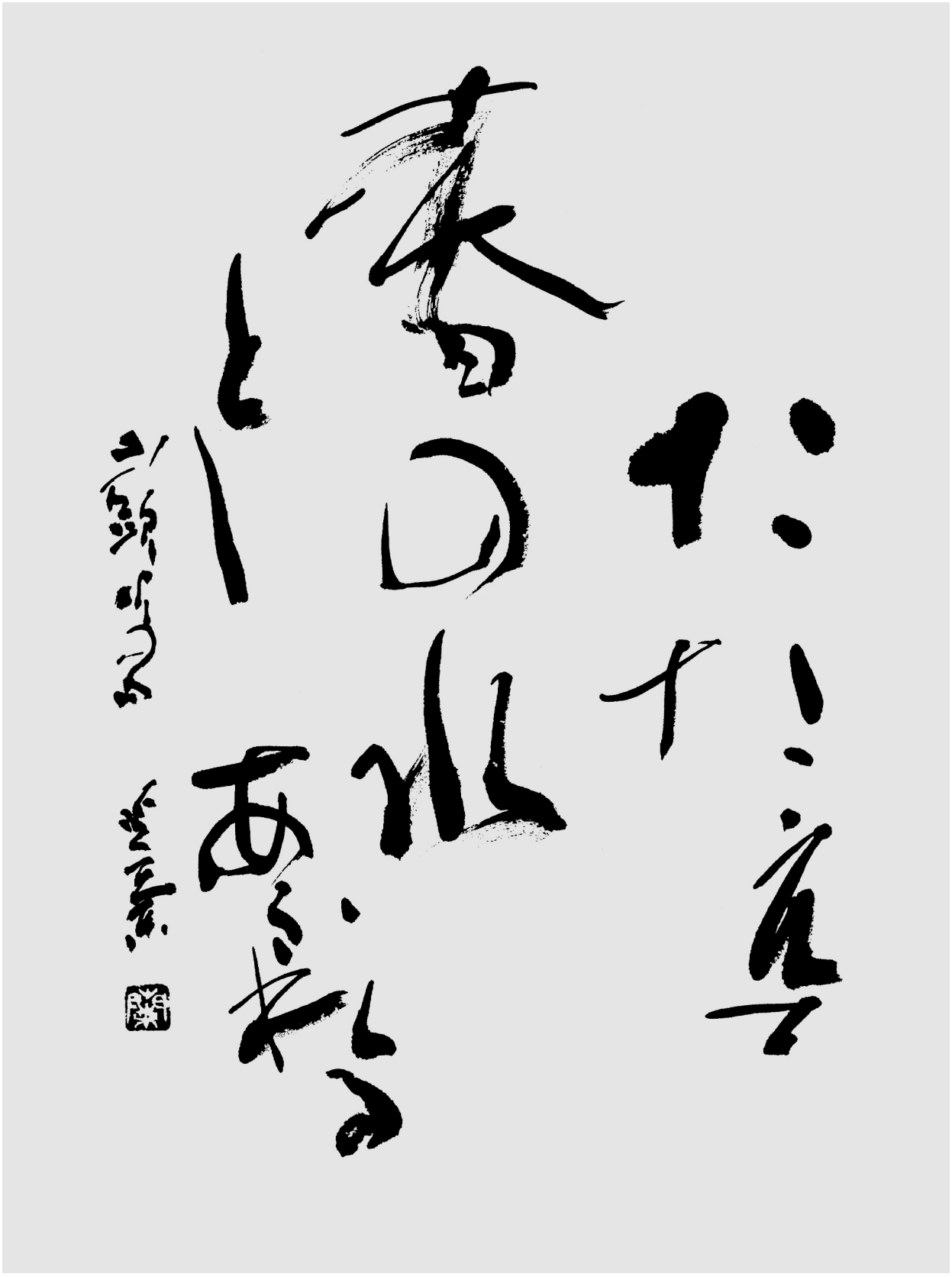
世の中よ　道こそなけれ　思ひ入る　山の奥にも　鹿そ鳴くなる

舟　尾　圭　碩　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈詩文書〉　種田山頭火の句　たたえて　春の水　としあふれる



※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。（ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください）

西　谷　芝　蘭　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□清香可愛　清香愛すべし（せいこうあい）（「鉄笛倒吹」九十八）
さわやかな人柄をいう。早咲きの梅が春を感じて、まがきのほとりに咲いている。

渡邉大嶽先生書

次号予告「吉人辞寡」

半紙随意（臨書）参考手本　　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）



「窺天鑒地」

〈臨書〉大胆に変化した楷書。まずは線の太い細いに注意して書こう。

清原大龍先生臨

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈実用書〉

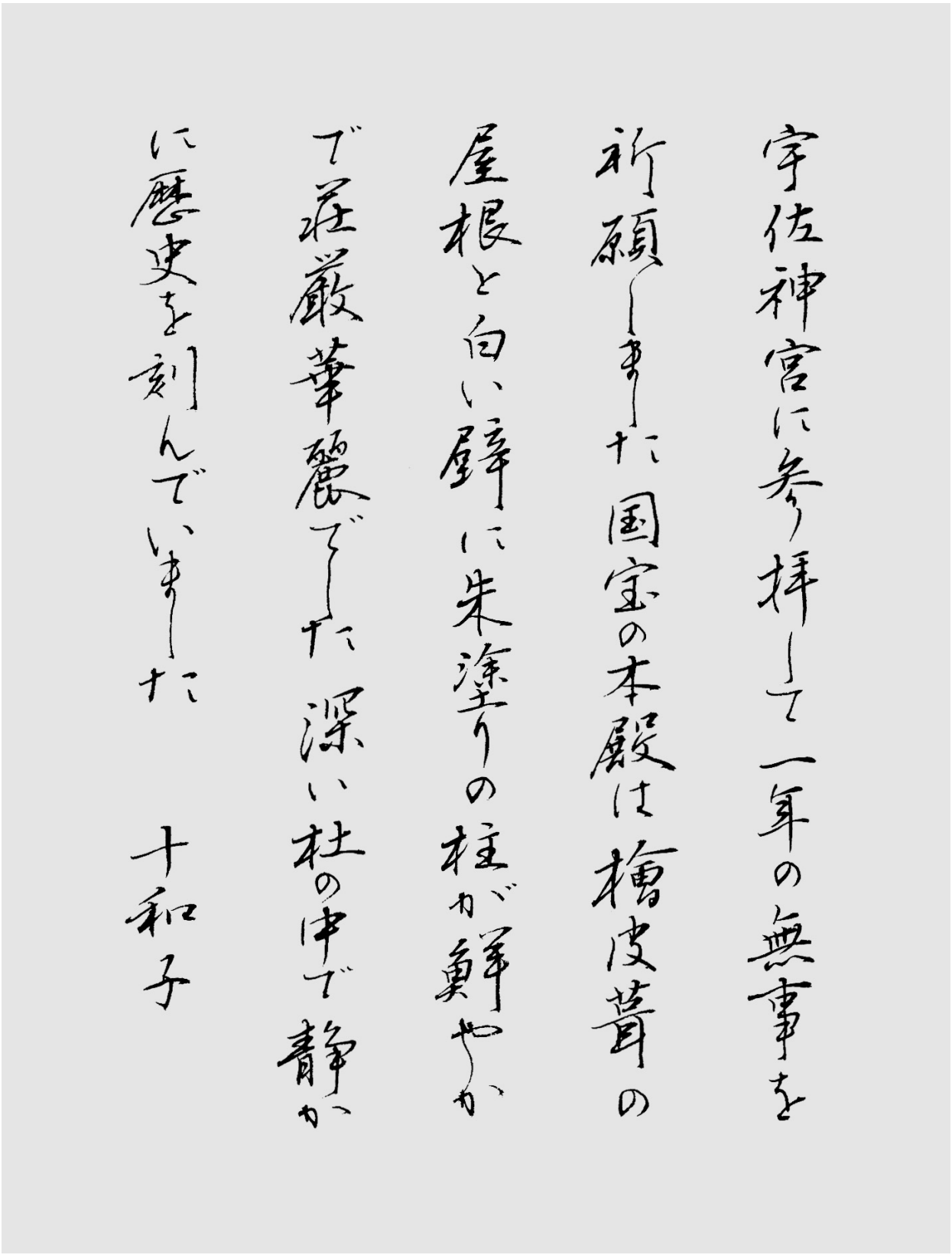
睦月　初夢　厳寒の候　大寒　ぼたん雪　よいお正月を迎え
鏡開き　樹氷　紅梅のつぼみ　初釜　七福神　一面の銀世界



秋　永　春　霞　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



〈手紙文〉

宇佐神宮に参拝して一年の無事を祈願しました　国宝の本殿は檜皮葺（ひわだぶき）の屋根と白い壁に朱塗りの柱が鮮やかで荘厳華麗でした　深い杜の中で静かに歴史を刻んでいました　十和子

大　坪　桂　子　先生書

一般硬筆部参考手本＜A＞ ―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

〈暮らしに役立つ書〉

書譜

先日は近況報告ありがとうございました。
アルバイトから始まり、この度晴れて正社員
になられたとのこと、お祝い申し上げます。
不規則な勤務時間、慣れない業務にも
常に真摯に向かう姿が、その結果に繋がった
のでしょうね。
書道はしばらくお休みとのこと。寂しくなり
ますが、またいつでもご連絡ください。お身体
に気をつけてお過ごしくださいね。
和美

罫のある便箋に書いてみよう。〈26cm×18cm〉紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

一般硬筆部参考手本＜B＞ ―1月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

「雑煮の夫婦別れ」という言葉を最近知った。雑煮は土地土地に流儀があり、これぱかりは他郷のものはだめ、たとえ夫婦でも譲れないらしい。裏を返せば日本の多彩な食文化の証である。

段　級

氏　名

小畠秋聲先生書

今月のかきかたドリル　（形や注意する点に気をつけてゆっくり書こう！）

中　学	小学６年	小学５年	小学４年	小学３年	小学２年	小学１年	ようねん
鮮	変	断	海	体	楽	夕	も
鮮	変	断	海	体	楽	夕	も
鮮	変	断	海	体	楽	夕	も

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

学生部条幅¼　参考手本　　―1月末日締切―



ようねん・小学1年　小学2年　小学3年　小学4年



小学5年　小学6年　中学1年　中学2・3年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

秋永春霞先生書

〈条幅¼＝四尺画仙紙半折¼…68cm×17・5cm〉

学生毛筆部規定参考手本　—1月末日締切—

ようねん・小学一年



次号予告「はね」

□「る」の〝むすび〟は、筆の軸だけをまわさないように気をつけて書きましょう。

小学二年



次号予告「カナリヤ」

□〝ハネ〟や〝ハライ〟は、腕全体で伸びやかに、そしてていねいに書きましょう。

坂元紫香先生書

小学三年



次号予告「美しい心」

□文字の中心に気をつけながら、線の方向や強さ、〝はね〟・〝はらい〟はゆっくりと書こう。

小学四年



次号予告「流れる星」

□「出」は二画目を強く、「発」は筆順に気をつけ、左右の〝はらい〟を伸びやかに書こう。

吉田成美先生書

学生毛筆部規定参考手本　　—1月末日締切—

小学五年



□二文字の中心とバランスに気をつけ、「希」の四画目・「望」の最終画を長く書こう。

次号予告「進む勇気」

小学六年



□平仮名と漢字の文字の大きさに注意して、「ゆ・り」の払いを伸び伸びと書きましょう。

次号予告「芸術の美」

秋永春霞先生書

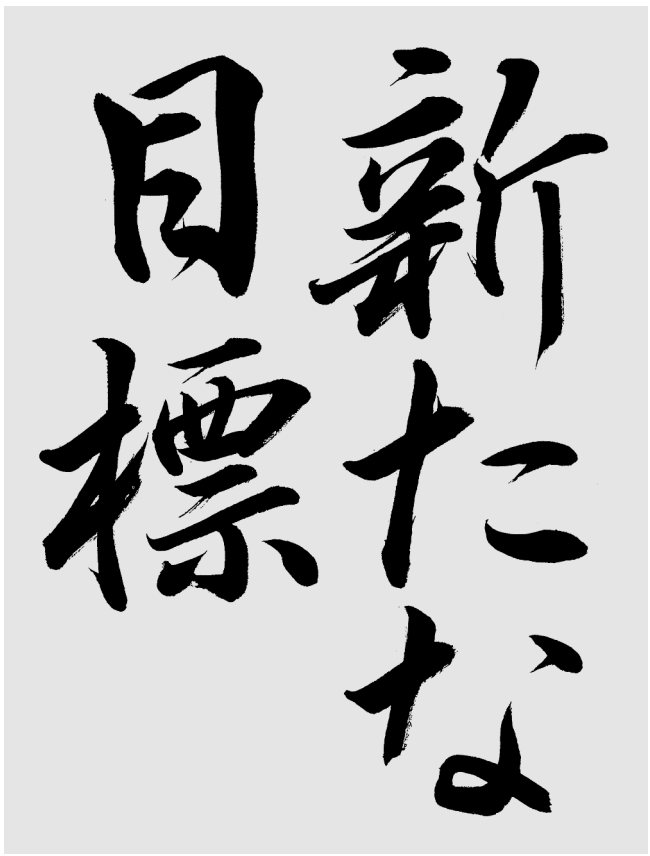
中学一年



□文字の中心を意識しながら、「不・言」は横画、「実・行」は部首に注意して書こう。

次号予告「大切な仲間」

中学二・三年



□行書と仮名の調和を意識して、筆脈・筆圧の変化を確かめながら伸びや書こう。

次号予告「花鳥風月」（行書）

吉田成美先生書

学生硬筆部規定参考手本　—1月末日締切—

ようねん　（※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてもよい。但、審査は従来通りです。）

段級								
氏名								

しももーおおーニま「とめる」

段級								
氏名								

小学一年

ノクタ（ゆう）ー二三田町「⊙あいだを あける ⊙はねる」（まち）

段級								
氏名								

「⊙ださない」

坂元紫香先生書

学生硬筆部規定参考手本　—1月末日締切—

小学二年

おにごっこは、みんなが楽しめるようにくふうされてきたのです。

ななめにはらう　とめる
斜　自　泊　楽（たの）　うふふ

段級

氏名

小学三年

はたらきありの体の仕組みを、細かに研究して、ありの行列のできるわけを知ることができた。

上のよこかくより長い
立ててよこかくにつける　まげる　とめる
糸　細　細　細　一　石　石　研　究　究（くぐ）（けんきゅう）（こま）

段級

氏名

坂元紫香先生書

小学四年

毎年のようにマリアナの
海に来るのは、ウナギがど
んな一生を送る生き物な
のかを調さするためです。

段級

氏名

上のよこかくより長い　とめる　はねる　とめる　はねる　ななめにうつ　はねる

坂元紫香先生書

小学五年

あたえられた小さなまどから
小さい景色をながめるのでな
く、自分の想像力でかべを破り、
大きな景色をながめて判断で
きる人間になってほしい。

段級

氏名

又ではない　上の横画より長い　はねる　一画で書く

小畠秋聲先生書

学生硬筆部規定参考手本

―1月末日締切―

小学六年

二メートルもある大物をしとめても、父はじまんすることもなく言うのだった。「海のめぐみだからなあ。」不漁の日が十日間続いても、父は少しも変わらなかった。

段級

氏名

◎上の横画より短い
糸 糸 結 結 続
◎まっすぐ下におろす
◎はらう
◎はねる
亡 亡 亦 変 変

中学

現在、木造の五重の塔は、中国や朝鮮半島にもごく僅かながら存在することがわかった。しかし、日本の五重の塔にあるような心柱の働きはどこにも見いだせなかった。

段級

氏名

打 打 扩 扩 拡 拡 搭 搭 魚 魚 魚 魚 鮮 鮮 仁 仁 倍 倍 倅 僅

小畠秋聲先生書